

売れる米づくり技術情報 (No. 1・2)

～ なんかん米 光る粒張り 粒ぞろい ～

平成19年3月29日
長岡農業普及指導センター
三条農業普及指導センター
J A に い が た 南 蒲

品質向上対策3本柱!

- ①適正粒数確保 (小さな稲づくり)
- ②後期栄養・水の確保 (粒張りの良い米づくり)
- ③土づくり (気象変動に強い稲づくり)

★ は種は4月20日頃! 田植えは5月10日頃!!

問題点・必要性

- 4月上旬の播種では気象災害の危険が高い
- ・播種後の低温による育苗障害
- ・生育ステージが早期化し、高温下での登熟により品質が低下

4月20日頃播種に合わせた育苗作業が、売れる米づくりの第一歩です。

4月5日頃消毒 → 4月20日頃播種 → 5月10日頃田植 → 8月5日頃出穂 → 品質向上!!

1. 床土・覆土の準備 【育苗一箱当たりの準備例】

床土	床土量	タチガレエース粉剤	育苗苗代配合	覆土	覆土量	ダコニール粉剤	カスミン粒剤 (細菌性病害対策)
	3リットル	6g	2.5~3.0g		1リットル	8g	2.0g

* 細菌性病害対策として、上表のカスミン粒剤の代わりに、カスミン液剤4倍液5.0mlを、は種後覆土前にかん注してもよい。

2. 種初めの準備から苗管理まで (作業日めやすは育苗加温で5月10日田植えの場合)

塩水選

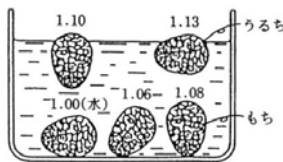
めやす 4/5~
水洗い
水切り

充実した種もみを選び、発芽率を高めます。

	比重	水10リットルに溶かす食塩の量
うるち	1.13	1.9kg
もち	1.08	1.1kg

*比重計のない時は右図のように新鮮な生卵を使いましょう。

塩水の濃度と生たまごの状態



種子消毒

めやす 4/5~

ばか苗病、いもち病、ごま葉枯れ病、苗立枯細菌病を予防します。

【薬剤の種類と消毒方法】

消毒方法	薬剤名	薬剤量・処理の方法	注意事項
種子塗抹	テクリードCフロアブル	乾もみ1kg当たり 原液を5ml	<ul style="list-style-type: none"> ・薬液量は、種もみ1kgに対して2~2.5リットル ・消毒効果を安定させるため、消毒後は風通しの良い日陰で種もみを十分に風乾させる ・低濃度浸漬の薬剤は、反復使用しない ・廃液は河川等へ流れないようにする
低濃度浸漬	テクリードCフロアブル	200倍液に24時間浸漬 (水10リットルに原液50ml)	
高濃度浸漬	テクリードCフロアブル	20倍液に10分間浸漬 (水10リットルに原液500ml)	

浸種

めやす 4/7~

発芽をそろえるために、種もみに水を十分に吸わせます。

水温	浸種期間	要点
10~15℃	積算温度で100℃	<ul style="list-style-type: none"> ・消毒効果を高めるために前半4日間は水を入れ替えず、その後1~2回水を入れ替える ・ときどき種もみの上下を交換する

芽出し
めやす 4/18~

加温により発芽をそろえます。

温度	注意事項
30℃	<ul style="list-style-type: none"> ・ハト胸状態まで行います。(発芽がそろったら終了) ・催芽時の高温は細菌性病害の発病を助長するので注意する ・ハト胸催芽機へのカスミン液剤の加用は厳禁(菌性菌の発生を助長する恐れがある)

は種
めやす 4/20~

育苗育成のために薄まきしましょう。

稚苗	一箱当たりのは種量 (g)		10a当たり必要箱数のめやす (箱)
	乾もみ	催芽もみ	
	130~140	165~175	17~20

140gまき



出芽期
めやす 出芽長
0.5~1cm

芽の伸びすぎに注意して、軟弱徒長を防止しましょう

	加温育苗	無加温育苗
日数	2~3日	4~6日
温度	30℃	30~15℃
かん水	は種時に十分かん水	は種時に十分かん水し、4~5日して出芽状況を確認した際に、乾いていたらかん水する

緑化期
めやす 2~4日

晴天時などの急激な温度上昇に注意しましょう

温度	日中 20~25℃	※夜間10℃以下にならないよう注意する。
	夜間 15~18℃	
かん水	1日1回 午前中に行う (10時頃まで)	

(こいぶきは苗丈を確保するため1日程度長めに緑化)

硬化期
めやす 13~15日

換気はこまめに行いましょう

温度	日中 15~20℃	※8℃以下にならないよう注意する。
	夜間 10~15℃	
かん水	前半は1日1回 (午前中)、後半は1日2回 (午後3時まで)。雨の日はやらない	

催芽状態



苗生育状態

〈出芽終了時〉

〈緑化終了時〉

